

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2018年3月29日発行 第84号

2018 春

お花見に行こう！

桜の季節、ウキウキのんびりお花見にでかけましょう♪

日時：4月6日(金) 11:30-14:30 (※小雨決行)

集合場所：三条鴨川南西の河川敷入り口(鴨川西、三条橋たもとの通りを南下)

お花見場所は、三条～御池あたりの鴨川西河川敷



昼食：お昼ごはんは各自で持参
飲み物・お菓子あり(当日代金を精算)

参加申込み締切：4月3日(火)

担当：橋口

連絡先：075-682-7950

当日の連絡はこちら

→090-8539-9436



こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ

日時：4月23日(月)

17:00-18:15 (OPEN16:45)

場所：油小路事務所2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料



*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当:岡山・橋口

TEL:075-682-7950 E-mail:jcil-kyoto@jcil.jp URL:http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html

居場所づくり勉強会 第52弾 バリアフリー問題

USJ・TDR へ調査に行ってきました！

～誰もが楽しめるテーマパークに～



居場所づくり勉強会の第52弾「バリアフリー問題」は、テーマパークのバリアについて「NPO 法人ちゅうぶ」の山下大祐さんと枚島優希さんにお話していただきました。

アトラクションに乗るときに自力歩行を求めたり、電動車いすを手動に切り替えて移動するように求めたりするユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）の差別的対応の問題点を、東京ディズニーリゾート（TDR）の実態と対比させながら明らかにしていくプレゼンテーションは非常に説得的でした。

今年はバリアフリー法が改正される年なので、このような調査を通してバリアの多さを明らかにされ、少しでも当事者の声の反映された法律になればと思いました。（橋口）

小松食堂

四月の献立

五日（木） チャーハン

ぎょうざ スープ

一六日（月） 焼肉

野菜を使った料理の

バイキング

（五〇〇円）

二三日（月） 丼

※上のにせる具

（肉、野菜など三種類）

を選べます。

どなたでも参加できます。

場所は「松の間」

いずれも一七時から

参加費 三〇〇円（五、二九日）

バリアフリー法が変わる！？ えっ、ほんま？

Part68

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



早くも桜が満開だね！

そうね。年度末はあつたいう間に過ぎて行ったね。もう新年度だあ。

ほんと、どうなることやらと心配したね。ようやくちょっと落ち着いて新年度を迎えられるかな。

ほお。障害者にとって大事な法律って、なんだろう？

へえ。バリアフリー法の「改正」ねえ。。
改正っていうのはつまりどういうこと
だろう？

うん。確かに、いちおうバスや電車には乗れるようになってきたけど、まだまだいろんなところで不自由感じるなあ。

うん。駅員さんやお店の人から、嫌な顔されたり、嫌なこと言われたりすることもあるなあ。

今回の改正、大きな意味があるから、車両内の車いすスペースを増やしてもらったり、ある程度までの小規模店舗のバリアフリー化を義務化してもらったり、要望しているけど、なかなか難しいところもある。ほんとは、どんな人も移動する権利がある！移動に不利益をこうむる場合その権利が保障されねばならない！という移動権の明記を要望していたけど、時期尚早ということで今のところムリ。

そうかあ。まだ私たちが自信もって移動できる！というふうにはなりにくいのね。

うん。でも、バリアフリーの進み具合をチェックする会議に当事者参画を進めていくなど、大事な点も法改正の中に含まれている。また議員にも働きかけするし、4月から5月にはじまる審議なども要注目だよ。

障害者制度改革について
勉強中のタクオさん
小難しいこともやさしく(?) 解説



ほんと。一カ月ほど前はとても寒かったけど、急に暖かくなって一気に満開になったね。

この前は「福祉まつり」もあったしね。でもたくさんの人が風邪で倒れて、たいへんな年度末だったあ。

そうだね。ところで、国会は、「森友問題」で紛糾しているけど、障害者にとって大事な法律が今回の国会で審議される予定だよ。

バリアフリー法の改正案だよ！

うん。もともと今のバリアフリー法は2006年に成立したんだ。それによって、路線バスは原則低床バスになって車いすで乗りやすくなったし、都市部ではほとんどの駅にエレベーターがつくようになった。10数年前に比べて社会の意識はだいぶ変わったと思う。けど、まだまだ不自由なところあるよね。

そうだよな。だいたい、車いすで入れる飲食店なんて、ほとんどない。ホテルやマンションを探すのも一苦労。道もでこぼこだし。観光地もいけるところは限られている。電車やバスも、一人以上で乗ろうと思ったら大変。

第32回 国際障害者年連続シンポジウム 参加記

誰もが「地域での暮らし」を選べるように

松波めぐみ（非常勤講師、たまに介助者）

3月3日に開催された、第32回 国際障害者年連続シンポジウム『どんな障害があっても安心して自分らしく暮らせる地域社会をめざして——親元や施設でなく、地域での暮らしをどう進めるか？』は、参加者160人を超える大盛況だった。前回のシンポでは、相模原事件の背景にある「地域移行」の遅れ、特に知的障害のある人が置き去りにされていることが指摘されていたが、今回はその課題を引き継ぐものだった。

午前中の岡部耕典さんの講演は、そのあとの映画「はみだしていく」（仮題）と併せ、説得力大だった。岡部さんの息子さんは強度行動障害（重度知的障害＋自閉症）があり、自立生活している。しかしなかなか信じてもらえない。「特に親には」と岡部さんは言う。知ってもらうには、映像は良い手段だ。

岡部さんの息子さんを含め、映画には三人の強度行動障害の当事者が登場する。みな介護者を使って一人暮らししている。順風満帆ではなく、地域の中でのトラブルもある。支援者も悩む。この先どうなるんだろうと思う場面もある。それでも「こんな暮らし・取り組みが現にある。制度を使って可能なんだ」と示すには、映像の力は確かに大きいと感じた。映画は夏ごろ公開予定。上映運動が始まったら協力したい。

午後の部は、まず地域移行について様々な立場から——行政の担当者、親の会で地域生活の取り組みをしてきた方、相談支援の仕事をしている方——からの発表があった。本当に地域自立生活を進めるには横の連携は欠かせない。



それに続く JCIL とピープルファースト京都の4人+小泉さんの発表は、圧巻だった。

- ・本人の意思と関わりなく家族に成年後見をつけられ、一生施設から出られなさそうだった超重度障害者・河野さん。裁判をしてまで「後見」を切ったことでようやく自立生活が実現。「よるになると のみにいきます」等、ご本人の言葉がうつしだされたスライドを見て、とても心を動かされた。

- ・佳代さんの自立生活8年目の発表。グループホームでは「人間関係がしんどかった」という体験を経ての一人暮らし。徐々に自信をつけていることは明らかだ。また、ご飯を食べに行かせてください。

- ・身体＋知的の重複障害がありつつ、本人が高校生のころから関わりがあった青年たっちゃん。親御さんの病気をきっかけに、自身体験を経て、自立が実現した。

- ・息をのんだのは最後、まっちゃん+小泉さん+渡邊さんが、お互いのこれまでの関わりについて書いた「手紙」を紹介。さんざん振り回された小泉さんが、まっちゃん本人が社会から受けてきた傷に気づき、「和解」に向かっていること。小泉さん自身もそのプロセスで社会との「和解」があったということを語られた。…とても説明しきれないけれど、「トラブルを起こすから、地域で暮らせない」と切り捨てるのではなく、目の前の人と関わり続けるという（ある意味）泥臭い実践が、自立生活運動の最前線を切り開いているのかなと思った。

小泉さんが、親御さんの苦悩（世間に向かって何度頭を下げてきたかわからない）を深く感じながら語ったところで、思わず涙が出た。講演者の岡部さんもここで泣いたそう。だ。（相模原事件の後、施設を「同じ場所に再建する」よう家族が求めたことで運動から批判があった。しかし本当にきびしく地域で排除されてきた家族の思いに寄り添わず、家族を責めることは間違いだ。まず小泉さんのような姿勢、共感が信頼関係のベースになると思った。）

いずれも一筋縄でいかない「自立」のストーリーばかり。どの発表も本当に良かったし、参加者にも響いていたと思う。

（個人的には、この春で京都に来て10年！と思うとしみじみ。これからもよろしくお願いします。）